

やすらぎ



「歎異抄」 第十四章 続き

「この悲願ましますは、かかるあさましき罪人いかでか生死を解脱すべきとおもいて、一生のあいだもうすところの念仏は、みなことごとく、如来大悲の恩を報じ徳を謝すとおもうべきなり。念仏もうさん」ことに、つみをほろぼさんと信ぜば、すでに、われとつみをけして往生せんとはげむにてこそそうろうなれ。もしからば一生のあいだ、おもいとおもふこと、みな生死のきずなにあらざるることなければ、いのちつきんまで念仏退転せずして往生すべし。(真宗聖典六三五頁)

我々を目覚ませ正定聚の位に入れようという大きな大悲の本願がなかったならば、私のような十悪五逆の罪人がどのような方法で迷いから解放

「歎異抄」(第三十五回)

標 暁 講述

されるのか。それは本願を信ずるより他にないのだということが本当に知らされて、如来の大慈悲の御恩報謝する念仏だと思わなければならぬ。たすかったことを深く飲ばせていただき、ひとえに本願によつてたすかったのだということを深く知つて、御恩報謝の念仏をさせていただくのか。それとも、一声、一声の念仏により自分で自分の罪を消そうとするのか。この違いが問われている。

自分の罪を自覚して消せると考える人は、常識に照らせば非常に立派なことで、素晴らしい心がけをもっているということになる。しかし、それは自力のはからいである。自分が称える念仏の功德で自分の罪を消そうと信じるのならば、どんなことがご縁で自分の胸に起こってくる思いもすべて迷いのきずなであるから、一時たりとも念仏しないで過ごすというわけにはい

光照寺寺報

発行所
宗教法人光照寺
〒331-0821
さいたま市北区别所町102-2
電話：048-651-2781(代)
FAX：048-651-2753
E-mail
yasuragi@beige.ocn.ne.jp
ホームページ
http://www8.ocn.ne.jp/~koshoji
発行人
池田孝郎

かない。人間は眠っているながら念仏できるか。そういうことは珍しい。眠っている時に悪い夢を見て罪をつくつても、ちゃんとすぐに念仏しなくては自分のつくつた罪は消せないのではな

いかということになる。自分で自分の罪を消していくということになると、これはもう油断がならないのである。自分の思いというものは妄念妄想であり、迷いのきずなである。きずなとは、縛るという意味もあるが、自分が迷いのもとをつくっているのだという迷いの因を表している。毎日、妄念妄想を起こしているいろいろなことを思う。人を憎んだり、欲望を起こして他人のものを我がものにしようと思つたり、また、そういう悪心ではなくても、自分はいままで生きられるのだから、死ぬ時は楽に死にたいものだ、できるならば死なないでいたいという思いがすべて妄念妄想である。我々が

因をつくっている。それがみな迷いの因であり、その思いに縛られて迷いの道を行こうとしている。

我執を根底にした煩惱生活そのものが、我々の身に具えている罪惡なのだから、自分で消そうとしていること自体が顛倒である。そういう無自覚者であるということに気づかさせていただく。本願によつて自分の罪惡の自覚を徹底させていただく。そして、翻つていく。本願のお力で翻していただくことによつて、浄土を生きることができるようである。

(当寺ご法話抜粋要約、文責副住職 釈徹照) 次回へ続く



花まつり



春彼岸会法要

子孫会報告

孟蘭盆会法要

詳細は三頁

詳細は三頁

む げ こう 無 碍 光

一凡夫が仏になる法一

住職 池田 孝郎

この度は「教育」について考えてみたい。何故ならば、不確実に満ちた今日の様相であるからです。何を依り処として生きたらよいのか不明となつていと思うからです。ヨーロッパの経済危機もギリシヤを発端とした先進国であり、近代の歴史上に於ける覇者であり続けた国々であり、アメリカも同然と見えるからです。又、日本も傍観出来ない状況下と観るからです。

日本は昔、中国を宗主国と仰ぎ、学び、明治以降は欧米に和魂洋才を以て学び、戦後はアメリカに追

いつき追い越せと経済戦争と位置付けて、学校教育も企業も国家も経済優先、科学技術優先で今日まで直向に走り続け、バブルの絶頂の経験とデフレスパイラルの低迷に苦しんでいる。この事は全てが経済中心で、ものの価値は全てがお金の尺度で計り、全てのものごとがお金で解決する幻想に陥っている。大切なものは何かが見失われている実情が今日の姿であると思わざるを得ないことです。

私が今、思うことは全てが物化され、大切な精神領域が見失われていると感じざるを得ないことです。清貧の美德を善として云うのではありません。歴史を逆戻りしたり、時代の進歩を止めよと云うのではありません。時代の流れは止められません。では何をどうすれば良いのかと問われることでありましよう。

それは営々と歩んで来た先人のご苦労から学ぶべきだと思います。日本には「温故知新」という素晴らしい格言があります。時代の先端のみ追うのではなく、古きを尋ね、先人のご苦労の中に伝える道理を求める方向性が大事であると申し上げたいことです。道理とは過去、現在、未来を貫く真理であるが故に道理たる所以があるのです。そこで本論のテーマの教育

に触れてみたいと思います。

今日の全てが川下思考の方向で川から大海へと、先端、先頭を競って走っている様相です。しかし、発想を逆転して、川上思考を取り、ものの根源、本質、根本、源流を尋ねる方向を持つべきものと考えます。古の先人もこの源流を尋ねて下さっております。そこに学ぶことが、今、最も大事と思うことです。人間の本质は「真理追求の学徒であり、求道者である」ことです。真理は客観として燦然と輝いてあります。その真理がこの私の上に届いて真と領くことが出来た時、それが真実です。真実は客観ではありません。私の身の上の主体に主観として感得される身の事実です。先人はこのことを求め、発見し、言葉として残し、指し示しておつて下さいます。これが「温故知新」です。「川上思考」です。人類の知恵はこの源流を尋ね、発見し、後世へ伝え示しておつて下さいます。先人の知恵に学び、源流を尋ね求め、根本智を学ぶことが最も大事であり、大切なことです。ここに「永遠の法」が現在するのです。これが本当の「教育」です。私は最大の教育者は「お釈迦様」と頂いております。浄土真宗は「本願を信じ念仏申す」とことと教えて下さいます。合掌。

真の依り処

あんどんの火のイメージはどう想像されますか。少し風が吹いたら火がゆらゆら細くなり、もう少し風が強くなったら消えるでしょう。それでは灯の火は如何思われますでしょうか。私は厳風雨で一寸先が見えない真暗闇の海の譬に絶対消えない灯火が明るくともっているように感じます。もしびは私が生きていく為の道しるべですから。昨今通学路やバス旅行で痛ましい事故が何回も続きました。何んとも悲しい事です。親、兄弟、親戚の方々は帰らぬ姿にもっていき場のない無念さ、悔しさ、悲しみだけが残り、自分の人生はこんなはずではないのだともがき苦しんでおられると思います。どうか人生の闇をお念佛の用きによって、一点の明かりを見出しお元氣になられることを心をよせています。合掌

岡田ノリ子

鈴の音

たとえ朝咲いて夜散る
花であつても、その中には
無限のいのちがある

金子 大榮
〔教行信証のころ〕

お盆



昨年、東日本大震災において天災・人災の脅威と不安を抱えつつ生活する私達において、アンニユイ(憐念)な気持ちばかりでなく、最近、法事をお勤めして感じてきたことは、弔うということの大切さが回復されてきたと多々感じられるようになりました。想像を膨らませば、「手を合わすことしかできない。もどかしさを抱えたお参り」とでも云えるでしょうか。形だけのお参りということではなく、手を合わすことが私には精一杯、ということが伝わってくるのです。

理屈を超えてそのようにせざるを得ないということが尊さを醸し出してくるのではないかと思います。そういう意味では震災が私達に仏事の回復を投げかけ、同時にそれは本当の安らぎと安心とは何かを問いかけたのだと思います。

「二人のひとの死は悲しい。しかし、遭された我らがそのことから何も学ばず、なにひとつ新しく生み出せないとすれば、それはもつと悲しい。」(東京教区教化委員会発行小冊子) 亡き人を偲び、お盆法要を通して、本当に安らいでいく世界のこころを感じていければと思います。お盆法要は二部制にて厳修致します。多数のご参詣をお待ちしております。(副住職 釈 徹照)

盂蘭盆会法要

- ・8月13日(月)
- 第一部(午前) 9時30分受付
午前10時～11時30分まで
- 第二部(午後) 1時受付
午後1時30分～3時30分まで
- ・光照寺本堂にて
- ・勤行・法話

※準備の都合上、出席人数と午前か午後の参詣をご連絡下さい。
預骨、初盆の方は率先してお参り下さい。
また、どなたでもお参りできます。
真宗のお盆に触れて下さい。ご参詣をお待ちします。

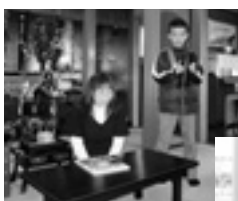
お盆参り

- ・7月13日から16日の期間
- ・8月1日から16日の期間
(13日は除く)

※ご希望の日にちをお知らせ下さい。
時間につきましては、こちらで調整させて頂きます。
ご自宅か当寺のいずれかで読経いたします。

子供会「ポニークラブ」報告

四月四日に「花まつり」を企画しました。当日は本堂で勤行、紙芝居、DVD鑑賞のあと、霊園でお釈迦さまの誕生仏に甘茶をかけ、野菜でコマを作りました。賑やかな一日でした。(副住職記)



紙芝居



甘茶かけ



野菜コマ作り



勤行

ひとくち 歎異抄

羅漢：法然聖人をどの様に頂いておるのか。
「法然聖人にすかされまいらせて、念仏して地獄におちたりとも、さらに後悔すべからずそうろう。」第二章。



いずれの行もおよびがたき身なれば、とても地獄は一定すみかぞかし。

川越喜多院の五百羅漢

◆次回予告◆八月十九日にお寺でバーベキューします。大人の方だけの参加も歓迎です。



寺務所より

◆法要のご案内

●孟蘭盆会法要 八月十三日(月)、午前・午後二部厳修。

●秋季彼岸会法要 九月二十二日(土) 午後一時三十分より厳修。

●報恩講 十月二十八日(日) 午前十一時より厳修。

◆聞法会のお知らせ

●親鸞聖人のお教えに聞く会 毎月開催。午後一時半～四時半まで。講師は樸暁先生。和讃を学んでいます。日程は寺にお尋ね下さい。

●大経の会

七月二十一日、九月二日、十月二十日、午前十時～午後三時まで。細川巖著正信偈讃仰(四)を学んでいます。お弁当持参して下さい。

●我聞の会

七月四日、九月十一日、十月三日、午後二時～四時まで。真宗の簡要を学んでいます。講師は住職。

●微風学舎

毎月開催。午後七時～九時まで。講師は副住職。「顕浄土」の教学・親鸞における現生不退の視座を学んでいます。日程は寺にお尋ね下さい。

●さいたま親鸞講座

市民公開講座。午後二時～四時まで。会場は大宮川鍋ビル。八月十八日、十月二十日、十二月八日、講師は四衛亮氏。

◆真宗に学ぶついで

七月五日午後一時から。会場は浄栄寺。講師は佐々木正氏。

◆光照寺旅行予告

九月十五日・十六日。箱根方面へ一泊を予定しています。
◆お願い
ご自宅で法事の際は駐車場をご用意下さい。宜しく願います。



俳句・川柳

吉澤 光昭

かび取りて長湯の風呂やいつもより掃き難し狭庭彩る落つばき
開山祭待てず雪道守屋山

西木 順子

雀らにどのくらいかな犬ふぐり恐竜のフィギュアをつまむ夏は来ぬ肥後椿たたえし人のありやなし

花岡 要

梨棚のはねたる枝も花盛り木々の芽は天暗くして光り出す

河野 日出子

花見酒差しつ差されつ花の舞い早咲きの桜戻りにほおを染むほんのりと酒気帯びたりて夜風かな
麗なる亡き子映すも花灯り
花吹雪はらりほろほろ春散りぬ
曲水木もれ陽の先すみれ草
ねじ花のひと花ひと粒なみだ色
大空を海と見紛ひ泳ぐ鯉
若竹に箭の子飯のおさまりぬ

江部 鴨村

母の日に
秩父連山翼をひろぐ春の風
里さくら愛でし母なり農婦たり
カラー咲く今も彼方に母の声
安達太良は母の山なり朴散華
顕浄土念ずれば立つ春の虹
葱坊主浅間山は雲を生むところ
ふるさとの草餅重したなごころ

山田 恒

冠雪の富士へ散歩の足が伸び息抜きのつもりの趣味が背中押す

二十年経れば大人になるのかな
青二才!!云ってやりたき親心
若さとは、やる気元気を云うことが

短歌(詩)

佐藤セツ子

残り香のかすかに匂う息子の部屋に孫らの描きし似顔絵ならぶ
春浅き庭に先ず咲く満作の花を愛
波濤巻く親不知行く車中より遠き昔に想い馳せおれり
病む父の青き血管透く手よりもらい
来たりし藪柑子実る
杳き日のふる里の駅に咲きていし水色桜今もありしか

河野 日出子

紫の滝落つる如咲く藤のくすぐり揺らす風の清けき
金色のじゅうたんの如蒲公英の畔道
はるか春の陽満ちて
許されぬ恋にあらば咲かせてよ熱き思いを振摺りの花

赤秀 品枝

青畳古稀にちなんで子供らと仏法を聞かれなによりうれし
四人目の孫誕生の兆し聞き一日一日の無事を祈らん

篠原 潤子

米寿になったその日に父は逝き弟夫婦に見守られつつ
肺炎で入院をして四日目で苦しみもせずただひっそりと
電話口スマナイススマナイその声が最期の会話になるとは思わず
親のもと五回続けて北海道行かせてもらえた夫のお陰で



梵鐘

私は現在八十二才である。光照寺の「大経の会」を住職と交代で担当している。他にも私が出席したいと思っている会が四十か所位ある。それで時間が欲しい。

ふと先師が「テレビを見るのをやめたら時間に余裕ができた」と言っておられたのを思い出した。私もテレビを見るのをやめてみた。本当に時間に余裕ができた。

聞法・勤行・念仏という信心に到る道を歩もうとすると時間を作り出す努力が必要になってくるのではあるまいか。

もう一つ私には仕事がある。それは隣接する「いずみ会館」の清掃である。会館の庭にはあたたかくなると草が生い茂る。毎日々々草を取って庭をはく。又先師のことばが響く。「禅寺の庭という言葉がある。ほうきの筋目が美しい」と。

佐々木 玄吾

花岡 要 画